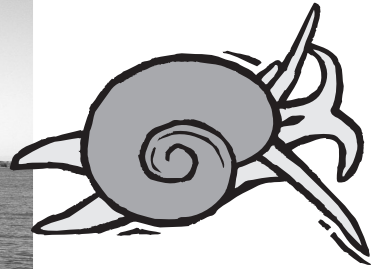
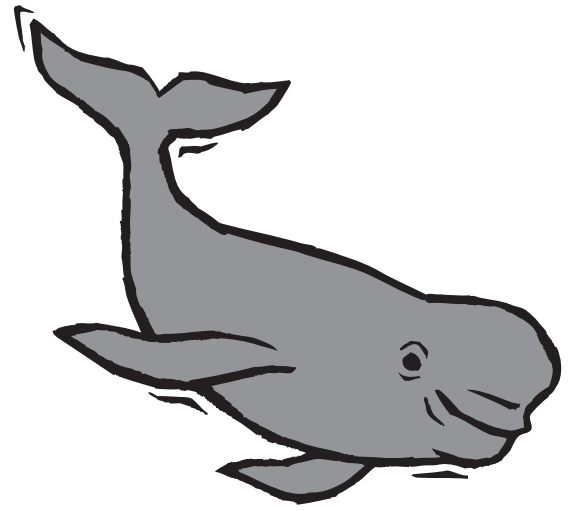


# 上関

## かみのせき 瀬戸内海の豊かさが 残る最後の場所

豊かな生物相と高い生産力に恵まれた瀬戸内海。その豊かさがほとんどの場所で失われた今も、上関のまわりには、驚くほど多様な生物が残っています。ここでの原子力発電所建設計画について、生物学研究者の三学会(日本生態学会、日本鳥学会、日本ベントス学会)は、もっと慎重な環境アセスメントを求める要望書を提出しました。その内容を一般に紹介します。



日時 2010年3月14日(日) 13:30~16:30

会場 明治大学駿河台校舎 リバティホール

東京都千代田区神田駿河台1-1 (JR「御茶ノ水駅」から徒歩3分)

### ●プログラム(13:00会場/13:30開会)

はじめに「上関原子力発電所建設計画のあらまし」

佐藤正典(鹿児島大学)

講演1「周防灘に残されている瀬戸内海の内風景」

加藤 真(京都大学)

講演2「上関に生息する希少な鳥類について」

飯田知彦(九州大学大学院)

三学会の要望書の説明

安溪遊地(日本生態学会上関問題要望書アフターケア委員会委員長)

佐藤重穂(日本鳥学会鳥類保護委員会副委員長)

逸見泰久(日本ベントス学会自然環境保全委員会委員長)

コメント「陸上生物、里山の観点から」

野間直彦(滋賀県立大学)

コメント「希少魚類について」

加納光樹(茨城大学)

コメント「スナメリについて」

粕谷俊雄(IUCN種保存鯨類部会委員)

コメント「生物多様性条約に基づく国の政策」

国会議員(調整中)

参加費:500円(資料代)

主催/日本生態学会 自然保護専門委員会  
日本鳥学会 鳥類保護委員会  
日本ベントス学会 自然環境保全委員会  
実行委員長/倉本宣(明治大学農学部教授)

後援/日本魚類学会自然保護委員会  
(財)日本自然保護協会  
(財)世界自然保護基金(WWF)ジャパン  
ラムサール・ネットワーク日本

問い合わせ先/  
083-928-5496(安溪)  
099-285-8169(佐藤)  
e-mail: sato@sci.kagoshima-u.ac.jp